

(公財) コープともしびボランティア振興財団

2022 年度事業計画

<基本方針>

助け合い支え合う地域社会を みんなの力で

<課題>

1. まちづくりの一翼を担う中間組織として、地域課題の解決に取り組む団体や人、ネットワークを支援します
2. 地域に当財団の活動への共感者、支援者をさらに広げます
3. 財団の基盤の安定化をめざし、資金調達と事務局機能の強化をはかります

I. まちづくりの一翼を担う中間組織として、地域課題の解決に取り組む団体や人、ネットワークを支援します

1. ボランティア活動助成

(1) 募集および申請状況

募集に関する広報は、当財団ホームページ、コープこうべ組合員向け機関紙「きょうどう」などで行いました。また、社協や行政その他の中間支援組織経由でのチラシ配布等を行い、申請状況は下記のとおりです。

県内9会場で開催した助成金説明会では、当財団の成り立ちや、助成の目的、特徴を理解いただいた上での申請をお願いしています。また説明会の後半に参加グループ同士の紹介・交流の時間を設け、ネットワークづくりの場としています。なお、新型コロナウイルス感染症対策のため、今回の説明会については昨年に引き続き、新規で申請される団体のみ参加を必須としました。

	申請 (グループ数 / 金額(円))	助成 (グループ数 / 金額(円))
福祉等	170 / (52) 19,320,000	168 / (52) 15,614,000
環境	16 / (3) 1,929,000	16 / (3) 1,577,000
合計	186 / (55) 21,249,000	184 / (55) 17,191,000

() 内数字はきらり助成数で内数

(2) 選考について

①助成検討委員の構成

2022年度助成検討委員は、資料2-1のとおりです。

②選考基準

ボランティア活動助成の募集要項に、下記の選考基準を記載し公開しています。

◇活動の公益性・必要性：公益性、必要性、地域貢献

◇活動の効果や継続・発展性：運営能力、チャレンジ性、広報力、連携

◇活動の実現可能性：実効性、計画性

◇費用の妥当性：助成金使途の妥当性、適切な受益者負担、会計能力

◇循環型のしくみへの理解

③選考方法

助成検討委員には、選考基準に基づいて評価いただき、その評価点を事務局で集約しました。助成検討委員会（3月1日に環境分野、3月3日・4日に福祉分野開催）では、その結果と、2022年度の助成予算を勘案しながら討議し、助成案をまとめました。なお、今年度からより論議を深め、助成団体への提言等をいただくことを目的とし、福祉分野を福祉とそれ以外の2分野に分けて選考および検討委員会を開催しました。

2022年度ボランティア活動助成は、2018年度から開始した少額助成「きらり助成」（上限1.5万円の助成）と、「ともしび助成」（上限30万円の助成）の2つの枠組みで募集を行いました。「きらり助成」については、コープこうべ地区本部長による選考会で第1次選考の後、助成検討委員会で協議しました。「ともしび助成」は助成検討委員会で選考、助成案をまとめました。

(3) 今年度の特徴

①申請数は回復傾向

特に新規申請状況を昨年度と比較してみると、環境分野は昨年と大きな変化はありませんが、ともしび助成の福祉分野の申請件数が28団体と大きく増加しました。

これまで年間10回以上継続して活動している団体を対象としていましたが、活動回数での条件を外したことで、コロナ禍で活動を休止している団体なども応募できたこと、食材費・通信費などの助成の対象となる経費を拡大したことが要因と考えられます。特に、子ども食堂・地域食堂を積極的に支援したいとの思いから今年度より食材費を助成の対象とし、子ども食堂の活動をしている団体に財団から積極的にアプローチしたことで12件の子ども食堂・地域食堂から新規申請がありました。

②申請団体数

公益移行した2012年度水準の申請数となった前年より26団体増加しました。

年度	申請件数						
	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
福祉	152	146	175 (35)	169 (51)	198 (72)	140 (53)	170 (52)
環境	36	37	26 (2)	24 (2)	19 (3)	20 (4)	16 (3)
合計	188	183	201 (37)	193 (53)	217 (75)	160 (57)	186 (55)

※

() 内はきらり助成数で内数

年度	上記のうち、新規申請件数						
	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
福祉	30	42	65	50	70	25	52
環境	9	7	5	6	3	6	4
合計	39	49	70	56	73	31	56

助成年度	平均申請額 福祉分野	平均申請額 環境分野	申請件数 全体	平均申請額 全体
2014	76,681	60,133	174	73,828
2015	82,084	58,893	183	78,505
2016	91,230	88,417	188	90,691
2017	94,308	91,135	183	93,667
2018	86,197	100,692	201	88,072
2019	78,751	104,875	193	82,000
2020	78,590	96,526	217	80,161
2021	80,471	124,350	160	85,956
2022	113,647	120,563	186	114,242

※2018年度から新設した「きらり助成」の新設により、平均申請金額は減少傾向にありましたが2021年度は「きらり助成」の申請が減ったため平均申請金額は増加しました。
さらに2022年度は食材費等の費用を中心に上限額まで申請する団体が増えたため平均申請額は大きく増加しました。

(4) 2022年度助成 分野別助成一覧

	分野	対象者	件数	助成額(円)	助成構成比(%)
①	福祉	高齢者	43	2,462,000	14.3
		障がい者	26	1,325,000	7.7
		青少年	1	160,000	1.0
		子ども(親子)	9	960,000	5.6
		地域住民	20	1,397,000	8.1
		施設・病院	1	15,000	0.0
		その他	7	847,000	4.9
		合計	107	7,166,000	41.7
②	まちづくり		4	812,000	4.7
③	防災・減災		4	562,000	3.3
④	人権		1	270,000	1.6
⑤	多文化共生・多世代交流		10	1,600,000	9.3
⑥	子ども育成		37	4,038,000	23.5
⑦	食と農		1	300,000	1.7
⑧	環境		16	1,577,000	9.2
⑨	その他		4	866,000	5.0
合計			184	17,191,000	100.0

「環境」分野については、2004年度より、コープこうべの買い物袋代金からの寄付を活用し、環境分野の助成検討委員会を設置し選考しています。

2022 年度 不採択案件 2 件（昨年度は 12 件）

- ◆ 資料 2-2 2022 年度助成説明会参加状況
- ◆ 資料 2-3 年度別助成一覧
- ◆ 資料 2-4 ボランティア活動助成 助成団体地域別一覧

（５）助成決定後のサポート

①交流会の開催

助成団体が集う「市民活動交流会」をコロナウイルス感染予防対策として東西 2 会場に分けて開催し、情報交換や、地域課題の共有化を行いました（5 月 26 日東会場、5 月 27 日西会場）。

また、子ども食堂など子ども育成に取り組む新規申請団体に設立から 5 年以内の団体が多いことから分野別交流・研修会を開催し、ネットワークづくりやステップアップの機会とします。

②相談や訪問の実施

運営や、報告用紙の書き方などの相談に個別に対応します。また、コープこうべ地区本部スタッフとともに、助成団体を訪問し、助成団体のとらえている地域課題を共有したり、課題解決に向けて困りごとの相談に応じます。

③ともしび通信や情報の提供

年 4 回発行の「ともしび通信」とともに、他の助成金情報、研修会の案内など、助成グループの皆さんに役立つ情報を送付していきます。

2. 社会的課題解決にチャレンジする団体への申請募集と選考

（１）やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト

財団と志を同じくする企業から寄付金をいただき、「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」を立ち上げ、2020 年度は 7 件、2021 年度は 17 件の助成を実施しました。

2022 年度は 21 社からの寄付総額 240 万円、活動支援準備金（2021 年度コープこうべからの寄付）から 760 万円を合わせ、1,000 万の予算で助成を行います。

社会的課題を解決するために活動している団体や 2022 年度は新たにポストコロナを見据え、共生社会の実現を目指す事業を行う団体を対象とし、2 月から募集を開始し過去最高の 41 団体から申請がありました。申請書による 1 次選考ののち、7 月 7 日にプレゼンテーションによる 2 次選考を行います。2 次選考会では、選考委員（財団の運営委員や、学識者、賛同企業などの皆さん）に助成団体を選出、決定していただきます。

このプロジェクトで助成する団体は法人格の有無を問わないものとし、社会的課題解決にチャレンジする団体に門戸を広げます。

●助成予算総額 1,000 万円

地域課題解決分野 1 団体/上限 50 万円

共生社会の実現を目指す事業分野 1 団体/上限 100 万円

3. 高校生の心豊かな育ちとボランティア人材の育成支援

(1) 高校生がボランティア活動を通して心豊かに育ち、次代の地域の担い手になることを願い「高校生のボランティア顕彰」を実施

第3次中期計画の中で、若い世代のボランティア人材の養成が計画の柱の一つとして位置付けられました。これに基づき、2019年度から「高校生のボランティア顕彰」をスタートしています。2019年度は18校、2020年度は17校、2021年度は13校を顕彰しました。2022年度もさらに多くの学校の参加をめざし、募集します。

決定後には参加者による交流を行い、互いに認め合う場をつくります。

●顕彰予算 60万円

4. 交流や学びの場の提供

(1) 連携して地域課題を解決するネットワークづくり

財団の持つ中間支援組織的機能を活かし、コープこうべの地区本部と地域内で活動するボランティア団体や地域団体、社協、専門職などとの交流や学習の場をつくります。互いに連携・協働して地域の様々なくらしの課題解決に取り組む中でネットワークづくりを進め、誰もが安心して暮らせるまちづくりの一翼を担います。

(2) 若い世代とコープこうべとの交流を推進

コープこうべの店舗および事業所等に近隣の高校生ボランティア顕彰高が集い、オンラインで繋ぐ方法で高校生ボランティア顕彰交流会を開催し、若い世代とコープこうべとの交流を推進し、協働して地域課題の解決に取り組むことを目指します。

(3) コープこうべ地区本部のボランティアや社会的課題の学びを支援

下記の2つの柱を基に地区本部が開催する講座や学習会を支援します。

- ①ボランティア活動の裾野を広げる講座
- ②社会的課題を共有し解決に向けて取り組む学習会

5. 2023年度「ボランティア活動助成」に向けて

(1) 2023年度の「ボランティア活動助成」の考え方

コロナウイルスの影響により先の見通せない状況が続く中、一部の団体からは有償ボランティアなどの人件費、地代・家賃等の固定費に対する助成を望む声が寄せられています。助成決定後のアンケートで詳しく調査を行い、運営委員会に諮った上で2023年度ボランティア活動助成に向けて検討します。

(2) 2023年度の「ボランティア活動助成」 説明会の実施と選考

2023年度助成に向け、「ボランティア活動助成」の申請に先立ち、10会場で説明会を行い、オンラインでも開催する予定です。会場はコープデイズ神戸西などコープこうべの店舗・事業所も設定し、地域の団体との交流を進めます。

また、コロナウイルス感染予防対策として直近の2年間は、新規で申請された団体のみ参加を必須としてきましたが、継続申請団体のモチベーションアップを目指

して継続団体向けの説明会も実施する予定です。また、第7地区本部と連携してコープデイズ豊岡で説明会を行うなど遠隔地にも対応します。

例年どおり10月より申請の受付を開始し、12月下旬締切後、3月の助成検討委員会で2023年度助成案を作成します。

II. 地域に当財団の活動への共感者、支援者をさらに広げます

1. 当財団の活動を積極的に広報し、共感を広げる

(1) ともしび通信の発行

同媒体は、当財団の機関紙として、3カ月ごとに、約3,000部発行し、ホームページでも公開しています。送付先は、賛助会員、寄付者、助成団体のほか、コープ店、中間支援組織、行政、社協、企業などですが、コープ店、中間支援組織や行政へは複数枚送付して、地域の人々にも配布いただいています。

2022年度もさらに内容の充実を図り、地域に財団の活動への共感を広げます。

2. コープこうべの関連部署や組合員組織と連携し、広報活動を推進

(1) コープ委員会の学習会、店舗で開催される学習会「レインボースクール」に財団についてのテーマでエントリーし、地域での学習会開催につなげます。

(2) 広報室と連携し、計画的でタイムリーなマスコミリリースを行います。

III. 財団の基盤の安定化をめざし、資金調達と事務局機能の強化を図ります

財団に助成を求める新規グループは増加しており、今後ますます資金調達の必要性が高まっています。低金利の続く中、債券運用はますます厳しい状況ですが、財団のミッションを果たすために、資金調達方法を多様化し強化します。

1. 資金調達の強化

(1) 2021年度 賛助会費・寄付・募金の目標

		2021年度実績	2022年度目標
賛助会費	個人	644,000	600,000
	法人	1,320,000	1,300,000
賛助会費合計		1,964,000	1,900,000
寄付	個人	716,870	700,000
	お香典にかえて	350,000	250,000
	法人	2,300,000	2,400,000
	まいくる	1,042,273	1,050,000
	つり銭チャリティ	503,160	450,000
寄付合計		4,912,303	4,850,000
募金	集中募金	7,584,251	7,500,000
	めーむポイント	3,786,300	3,500,000
	イベント募金	0	0
	きしゃぼん	778,979	850,000
	切手・はがき	131,619	150,000
	その他	54,836	0
募金合計		12,335,985	12,000,000
総合計		19,212,288	18,750,000

(2) 法人からの寄付および法人賛助会員の募集の強化

「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」は、初年度賛同企業 7 社、寄付金額 100 万円からスタートしましたが、現在は 21 企業から総額 240 万円の寄付を得ています。2022 年度もコープ協力会加盟会社などに、賛同企業とともに新規の法人賛助会員への呼びかけも行います。

(3) 集中募金を 6 月と 10 月に実施

2022 年度も 6 月と 10 月の年 2 回コープこうべの地域活動推進部が窓口になり、募金の呼びかけを行っていただきます。宅配の「めーむ」に折り込まれるチラシで財団の活動を丁寧に広報し、コープこうべの組合員・職員の財団への理解を深める良い機会として取り組めます。

(4) 「古本募金 きしゃぼん」のさらなる拡大

2016 年 7 月にスタートした「古本募金 きしゃぼん」は財団らしい取り組みとして定着し、2021 年度は約 80 万円の募金になりました。コープの店舗等 30 カ所に古本回収ボックスを設置しています。

2022 年度も、さらに寄付額の増加を目指して呼びかけを行います。

(5) 未使用切手、書き損じハガキの回収

コープ委員会と、コープの職員向けに未使用切手、書き損じハガキの回収を定期的に呼びかけ、使用可能な切手などに交換しています。2022 年度も同様の回収の呼びかけを実施します。

(6) 先進事例の学習と検討

外部団体などによる資金調達の成功例について、ホームページやセミナー、訪問などにより、研究を進め、当財団でも可能なものについて検討します。

(7) 基本財産の運用

これまで年利 2.00% もの高い運用益を生んでいた「シルフリミテッドシリーズ 1219」の債券が 2022 年 3 月に満期償還され、いったん預け金としていますが各証券会社様から情報収集の上、買い替えを検討して参ります。また、その他にも早期償還がかかる可能性のある債券が 8 月と 2 月に 1 本、9 月と 3 月に 2 本と計 3 本あり、今年度も運用規則にのっとり、適正に運用を検討していきます。

2. 財団の基盤、人材育成の強化

(1) 財団スタッフの人材育成

第 3 次中期計画の実現のためには、財団のスタッフとして、ボランティアコーディネータ、ファンレイズ力の向上が求められています。内外の研修へ積極的に参加することで、スキルアップを図るとともに、オンラインを活用して外部団体との交流の機会を増やし、ネットワークづくりを促進します。